

中央教育審議会総会（第90回）及び高大接続特別部会（第14回、15回）における
高等学校教育部会「審議まとめ（案）」に関する意見

■中央教育審議会総会（第90回）（平成26年3月28日）

- 現状で、基礎学力の不足と学習意欲の低さを課題としているが、別に高校に限ったことではなくて、小学生、中学生からのものであり、志、目的意識をどう持たせるかが一番の問題である。
- 実施方法として年間に2回程度としているが、アメリカのSATは7回実施しており、余りに少ないのではないか。また、アメリカの大学では学業成績だけではなく、どういふ活動をしたかなど非常にきめ細かに判断するが、それは、先生の書く推薦状に対する信頼性が非常にあるから。日本で推薦状に対する信頼、良いことも悪いことも書くという風土が育たないといけない。
- 「高等学校卒業程度認定試験」と統合をする方向も含めて検討とあるが、現在は、様々な方も受験できる、学び直しをする入り口としてという機能も備えているため、新たな制度において、現在の対象者も引き続き対象となるよう検討いただきたい。また、社会人や女性が活用しやすいようなことも含めて併せて検討いただきたい。

■高大接続特別部会（第14回：平成26年3月25日）、（第15回：平成26年5月23日）

- 高校卒業認定試験と統合する方向も含めて検討とあるが、例えば2年生でこの試験を受かったら、高校卒業という資格と同じことになり、高卒程度認定試験とこの基礎レベルの試験は意味合いが違うので、問題が出てくるのではないか。
- 達成度テスト、基礎レベルと発展レベルの相対的な関係についてもう少し基本的に考えるべき点はあるのではないか。
- 基礎レベルとの関係で、いわゆる高等学校卒業程度認定試験と統合するという形で考えると、それほど高いレベルではなく、それでは大学の授業についていけるかどうか疑問であり、もう少し発展レベルの方にも基礎的・基本的な能力の辺りを入れていただきたい。
- 基礎レベルで測る学力と発展レベルで測る教科型の基礎的な知識・技能の違いはどうかということについては整理しなければいけない。
- 達成度テストについて、どれぐらいの時間をかけるか具体的には分からないまでも、こういった手続を経て具体化していくのか。制度設計の段階では乗り越えないといけなような様々な課題があるわけで、そういったことも併せて是非発表していただきたい。
- 基礎レベルにしても、この発展レベルにしても、生徒が複数回受験をするということに対して、テストの経費、受験料的なものについて、保護者の負担なのかどうか今の段階では出てきていない。保護者の経済力が子供たちのいわゆる教育の格差につながるよう、この視点だけはぶれずに検討いただきたい。